

令和 7 年度学校評価実施計画

学校名	竹田支援学校
-----	--------

前年度評価結果の概要	本年度の大きな柱としてあげた「授業改善」、「安全・安心な学校づくりの取組」、「働き方改革」のいずれの取組においても、本校の仕組み化、組織化を徹底したことによって一定の成果を上げたと思われる。次年度は、本年度の取組について、その形を維持・継続しつつも、それぞれの取組について、児童生徒や職員が主体的に振り返ったことを教育活動に落とし込む、真の意味での「深化」が課題である。
------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
児童生徒一人一人の尊厳を重んじ、きめ細かな指導をととして個々の能力や適性を伸ばし、今を、将来を、主体的に生活し、社会の中で協力して心豊かに生きる児童生徒を育成する。	(1)安定したカリキュラム・マネジメントによる質の高い教育課程の編成と生きる力を培うための授業実践の充実 (2)家庭、地域、関係機関等との連携による安全、安心な学校づくり (3)仕事の効率化による働き方改革	○安定したカリキュラム・マネジメントにより充実した授業を通して主体的に学ぶ児童生徒育成の深化 ○主体的に行動できる職員の育成と地域と連携した防災教育の推進による安全・安心な学校づくりの深化 ○職員が主体性に考えて実践できる働き方改革の取組の深化

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
○安定したカリキュラム・マネジメントにより充実した授業を通して主体的に学ぶ児童生徒育成の深化	○各学部において、整理された指導内容が適切に記述された年間指導計画が複数教科で完成。 ○年間指導計画の見直しを中心に据えた「竹田支援式カリキュラム・マネジメント」が完成。	○授業改善の充実につながる「竹田支援式カリキュラム・マネジメント」の確立 ・教科別に「基礎基本」となる指導内容を整理 ・授業実践を通した年間指導計画の見直し	○PLより①指導内容の整理②年間指導計画の見直しの手順と年間の取組スケジュールを示す(4月末) ○SLが各学部、学年における取組の具体的な計画を示す(5月) ○手順に沿って対象教科の指導内容を整理(8月末まで) ○授業評価をもとに年間指導計画を見直し、整理した指導内容を位置付けて完成させる(2月末まで)	PL:主幹教諭 (教務部担当) 教務主任 SL:学部主事
	○各学部が研究対象とした教科において、主体的に学ぶ姿を引き出すための指導方法を工夫し、学習指導案に示すことのできた教員の割合90%以上 ○研究対象の教科で各教員が担当する一題材以上の授業において、主体的に学んでいる児童生徒の割合が80%以上	○子どもが自分の学習を振り返り、達成感を持つことのできる授業づくり(校内研究としての取組…一人一実践) ・竹田支援学校版「主体的に学ぶ姿」の具体化 ・子どもが自ら気づき、自己評価する授業の工夫と実践	○研修部より ①「主体的に学ぶ姿」の具体化 ②一人一実践の取組の取組スケジュールを示す(4月中旬) ・授業公開研(1月期)に向けた指導案審議(4～5月) ・学習指導案を伴う授業実践(6～7月) ・1学期の授業実践をもとにした改善授業(2学期) ○主体的に学ぶ姿のチェックリストや児童生徒へのアンケートの作成(1学期)チェックリストやアンケートの実施(2学期)	PL:研究主任 主幹教諭 (研修部担当) SL:学部主事
○主体的に行動できる職員の育成と地域と連携した防災教育の推進による安全・安心な学校づくりの深化	○年間のヒヤリハット報告を全教員が複数件報告(ヒヤリハットを複数件スプレッドシートに入力した教員:前期50%、後期100%) ○ヒヤリハットを共有し分析する学部会を各学期に1回以上開催した学部100%	○ヒヤリハット(インシデント)を見落とさない・見逃さない教員の育成 ○ヒヤリハット(インシデント)の即時共有と分析・検証する体制の確立 ○ヒヤリハット(インシデント)の分析結果から改善策の提案・実施	○学部会でのヒヤリハット報告・情報共有(月1回) ○学部会でのヒヤリハットの事例分析と検証、改善案の提示(学期に1回) ○学部会でのヒヤリハット改善案の実施状況確認(改善案提示後、月1回)	PL:主幹教諭 (生徒指導部担当) 生徒指導主任 SL:学部主事
	○各種訓練時に、自分の役割を理解して適切に行動できる教員90%以上 ○生徒のアンケートや振り返りから防災教育に対する指導・支援を工夫した教員80%以上 ○訓練のめあてを達成できたと回答する児童生徒の割合前期60%以上、後期70%以上	○コミュニティスクール防災教育部会の開催と連携についての協議 ○学校安全計画に基づいた、実際を想定した各種訓練の充実 ○地域と連携した避難訓練の実施と主体性を引き出す振り返りの実施 ○訓練のめあてをできたと回答する児童生徒の育成	○地域と連携した防災体制の確立と避難訓練の実施 ○児童生徒および教職員が主体性を持って取り組む防災教育の実践 ○防災教育について協議するコミュニティスクール防災教育部会の開催(年2回) ○各種訓練後のアンケートの実施	PL:主幹教諭 (生徒指導部担当) 生徒指導主任 SL:学部主事 防災教育コーディネーター
○職員が主体性に考えて実践できる働き方改革の取組の深化	○各種行事の精選や実施計画の工夫の結果を年2回示す ○勤務時間や休暇取得等のデータを分析して改善策を考案した職員100% ○勤務時間や休暇取得等のデータを分析して得た改善策を実践した職員80%	○Webやメールを活用した仕事の効率化 ・WebアンケートやICTを活用した仕事の効率化の推進と各種行事の精選 ○職員の働き方改革に対して主体的に考え、見通しを持った計画的な働き方の推奨 ○職員の働き方の見える化の推進 ・勤務時間や休暇取得等のデータの主体的な分析と改善策の考案・実践○各学部の実態に応じた「空き時間」の検出の工夫(学部主事)	○「空き時間」を組み込んだ日課づくり(学部主事・通年) ○Webでアンケートによる職員実態の把握(教頭:学期に1回) ○分掌主任会にて各種行事の精選や実施計画の工夫について協議・共通理解(年2回)	PL:教頭 SL:学部主事 教務主任 情報化推進リーダー